





大正十一年四月
張敬之印贈



イ14
A2211
4

紙幣局職工規則 明治十年九月改定

第一條

職工ハ印刷版製肉彫刻調査抄紙活版ノ六部ニ使役スルモノナリ

第二條

職工ハ三井銀行ニ於テ身元保證ヲナシタルモノヲ撰舉スルヲ則トス尤抄紙部職工ハ別ニ保證ノモノアリ此限ニアラス

但等内工及製肉彫刻兩部ノ職工抄紙部配合科職工ハ本文ノ保證ヲ受ルニ及ハス且等外工ト雖滿五年以上奉職ノ者ハ保証ニ及ハサルトス



第三條

職工ノ階級并給料左ノ如シ

一等工 日給金壹圓貳拾錢

二等工 同 同壹圓

三等工 同 同八拾錢

四等工 同 同六拾錢

五等工 同 同五拾錢

是ヲ等内工トス

等外一等工 日給金四拾五錢

同 二等工 同 同四拾錢

同 三等工 同 同三拾五錢

同 四等工 同 同三拾錢
同 五等工 同 同二拾五錢

是ヲ等外工トス

試驗工 日給金二拾錢

是ヲ新規撰用ノ初級トス

一級工 日給金二拾錢

二級工 同 同拾五錢

三級工 同 同拾錢

是ヲ幼年工トス

第四條

給料ハ勤數ニ應シ毎月兩度ニ給與スヘシ

但休暇并病氣忌中其外總テ不參ノ日數ハ給料ヲ支給セ
ス

第五條

新タニ撰擧シテ試験工ヲ命スルモノハ其適當ノ業ニ使役
シテ其技能ヲ試験シ其事ニ堪ヘサルモノハ放免スヘシ

第六條

試験工ノ内一科ノ業ニ熟達スル者ハ追々等級ヲ進メ一等
ニ至ルヲ得ヘシ
但シ拔群ノ技能アルモノハ必シモ此例ニ據ラス一時數
等ヲ超越スルヲ得ヘシ

第七條

等外一等工ノ内技業拔群ノ者ハ等内工ニ進メテ追々昇級
スルヲ得ヘシ

第八條

等内工ノ内工業熟達シテ非常ノ功勞アルモノハ技生ニ昇
ルヲ得ヘシ

第九條

等内工ヲ命セラ、ル者ハ末條ニ掲クル甲號文案ノ通誓詞
ヲ差出シ等外工モ亦乙號文案ノ通り誓詞ヲ差出スヘシ
但製肉部各科彫刻部各科抄紙部配合科ノ職工ハ等内外
ヲ間ハス丙號文案ノ通り誓詞ヲ差出スヘシ

第十條

等内工ハ部中役員ノ差圖ニ從ヒ工業ニ從事シテ等外工ヲ
教導シ技業ノ進捗スルヲ勤ムヘシ

第十一條

等外工ニ撰舉セラル、者ハ部中役員ハ勿論等内工ノ差圖
ニ從ヒ誠實工業ニ從事シ其業ノ熟達スルヲ勉ムヘシ

第十二條

通常執業ノ時間ハ一日九時間トシ右時間ノ外日ノ長短ニ
應シ別ニ喫飯ノ時間ヲ定ムルヲ左ノ如シ

從三月
至九月
從十月
至二月

一時間

三十分間

但シ事業ノ都合ニヨリテハ此時間ヲ伸ヘ又ハ夜業ヲ命

スルヲアルベシ

第十三條

右通常時間ノ外ニ於テ執業スルモノハ左ノ割合ヲ以テ増
給ヲ與フヘシ

一等工	一時間ニ付	金拾三錢三厘
二等工	同	金拾壹錢壹厘
三等工	同	金八錢九厘
四等工	同	金六錢七厘
五等工	同	金五錢六厘
等外一等工	同	金五錢
同 二等工	同	金四錢四厘

同 三等工	同	金三錢九厘
同 四等工	同	金三錢三厘
同 五等工	同	金貳錢八厘
試驗工	同	金貳錢貳厘
一級工	同	金貳錢貳厘
二級工	同	金壹錢七厘
三級工	同	金壹錢壹厘

第十四條

開業時刻ニ後レ出頭スルモノハ公務ノ外其事故ヲ問ハス其日ノ入場ヲ許サス

第十五條

執業中猥リニ退出ヲ許サス尤病氣又ハ止ムヲ得ザル事故アルノ確證アルハ此限ニアラス

第十六條

出場ノ上病氣ニテ午前退場スル者ハ日給ノ半額ヲ給シ午後退場スル者ハ日給ノ全額ヲ給スヘシ

第十七條

日々部中ノ出入ハ鑑札ヲ以テ通行スルヲ則トス

但シ此鑑札ヲ紛失セシムルモノハ相當ノ處分アルヘシ故ニ平常大切ニ所持シテ紛失セサル様心掛ヘシ萬一紛失スルコアラハ速ニ届出ヘシ

第十八條

職工各自ノ望ミニ任セ保伍ヲ立テ組合規則ヲ遵奉シ伍中
互ニ忠告相保護シ伍中ノ取締ヲ嚴重ニスヘシ

第十九條

場中ハ勿論出入ノ節タリ共不作法ノ所行アルヘカラス

第二十條

工場中ハ紙幣及公債證書等ノ如キ至重ノ製品ヲ取扱フ所
ナルニヨリ紛失ノ弊ヲ避クルカ爲躰體ニアラサレハ出入
ヲ許サス

第二十一條

總テ製造品ハ勿論器械物品等損セサル様鄭重ニ取扱フヘ
シ

第二十二條

工場中ハ工業ニ係ル入用ノ外火鉢ヲ嚴禁ス

第二十三條

工場中吸煙ヲ嚴禁ス

第二十四條

工場中ハ役服ヲ着用スヘシ

第二十五條

工業中雜話スヘカラス

第二十六條

疾病ニ罹リ休業一週日ニ及フ時ハ醫案ヲ副届出ヘシ
但シ等内工ハ日々届出一週日ニ及フ時ハ醫案ヲ副届出

ヘシ

第廿七條

等外工同上二週日ニ及ヒ出勤難相成節ハ其職ヲ免スヘシ
等内工ハ同斷三週日ニ及フ時其職ヲ免スヘシ

但シ平日着實ニ勉勵シ功勞アルモノハ部長ノ意見ヲ以
テ尙休業ヲ許シ療養セシムルコトアルヘシ尤休業中ハ鑑
札ヲ返納スヘシ

第廿八條

休息時間ト雖猥リニ他ノ部ニ行クヲ許サス

但シ公務ハ此限ニアラス

第廿九條

醉氣ヲ帶ヒ出頭スヘカラス

第三十條

女工ニ對シ戲謔ハ勿論妄リニ言語ヲ接スル等不作法ノ所
爲アルヘカラス

第三十一條

工業ノ都合ニヨリテ局長ヨリ三日以上ノ休業ヲ命スル時
ハ等内工ハ休業中日給四分ノ一ヲ給與スヘシ
但シ等外工ハ此例ニアラス

第三十二條

非常ノ勉勵アル者ハ臨時相當ノ賞與アルヘシ

第三十三條

居住ヲ轉シ及ヒ身分上ニ變更アル等ハ速ニ届出ヘシ

第三十四條

非常ノ節ハ速ニ駈付部中役員ノ指令ニ從ヒ器械物品取片付其他消防等盡カスヘシ

ハ但シ盡力シタル者ハ相當ノ賞與ヲナスヘシ

右之條件誠實ニ遵奉可致事

明治十年九月

甲號

各部等内工誓詞案

一自分儀今般當部等内工被仰付候ニ付テハ御指令ハ勿論

御規則ヲ遵奉シ部長其他科中諸御役員ノ指揮ニ從ヒ當務ノ技術勉勵可仕事

一部中ノ秘事ハ勿論奉務上ノ事件ハ大小トナク他人ハ勿論家族ノモノタリ共決シテ漏泄仕間敷事

一自分ヨリ轉職退職等決シテ相願間敷事

一在職中ハ奉務上擔當ノ技業等ヲ以テ私ノ營業仕間敷事右條々神明ニ誓ヒ決シテ違背仕間敷因テ誓詞如件

年月日

某部何等工何某印

紙幣局長何某殿

乙號

各部等外工誓詞案

- 一 自分儀今般當部等外工被仰付候ニ付テハ御指令ハ勿論御規則ヲ遵奉シ科中諸御役員及ビ等内工ノ指揮ニ從ヒ當務ノ技業勉勵可仕事
 - 一 奉務上ノ事件ハ大小トナク他人ハ勿論家族ノモノタリ共決シテ漏泄仕間敷事
 - 一 不得止事故ノ外濫リニ退職相願間敷事
 - 一 在職中ハ奉務上擔當ノ事業ヲ以テ私ノ營業仕間敷事右條々神明ニ誓ヒ決シテ違背仕間敷因テ誓詞如件
- 年月日 某部等外何等工何某印

某部長何某殿

丙號

製肉部各科彫刻部各科抄紙部配合科職工誓詞案

- 一 自分儀今般當部某科職工被仰付候ニ付テハ御指令ハ勿論御規則ヲ遵奉シ部長其他科中諸御役員ノ指揮ニ從ヒ當務ノ技術勉勵可仕事
- 一 科中ノ秘事ハ勿論奉務上ノ事件ハ大小トナク他人ハ勿論家族ノモノタリ共決シテ漏洩仕間敷事
- 一 自分ヨリ轉職退職等決シテ相願間敷事
- 一 在職中ハ勿論免職ノ後タリ共奉務上擔當ノ技業等ヲ以テ私ノ營業仕間敷事

右條々神明ニ誓ヒ決シテ違背仕間敷因テ誓詞如件

年月日

某部某科職工何某印

紙幣局長何某殿

女工規則

第一條

女工ハ總テ調査抄紙活版ノ三部ニ於テ抄紙白紙調護膜引
番記印載目打目通検査員數調封緘等ノ事業ニ使役スル所
ナリ

第二條

女工ハ三井銀行ニ於テ身元保證ヲナシタルモノヲ撰舉ス
ルヲ則トス尤抄紙部女工ノ儀ハ別ニ保證人有之ニ付此限
ニアラス

但シ正副取締ハ本文ノ保證ヲ受ルニ及ハサルハ勿論其
他ノ女工モ滿五ヶ年以上勤續ノモノハ保證ニ及ハサル

第三條

等級并給料左ノ如シ

一等女工	日給金四拾錢
二等女工	同 金三拾五錢
三等女工	同 金三拾錢
四等女工	同 金貳拾五錢
五等女工	同 金貳拾錢
六等女工	同 金拾六錢
七等女工	同 金拾三錢
試験女工	同 金拾錢

一級女工

同 金拾錢

二級女工

同 金七錢

是二級ヲ幼年工ノ階級トス

第四條

給料ハ勤數ニ應シ毎月兩度ニ給與スヘシ

但休暇并病氣忌中其外總テ不參ノ日數ハ給料ヲ支給セ
ス

第五條

新タニ撰舉シテ試験女工ヲ命ズルモノハ先ツ各科ニ使役
シテ其能クスル所ヲ試験シ所長ノ業ニ從事セシメ其事ニ
堪ヘサルモノハ放免スヘシ

第六條

試験女工ノ内一科ノ業ニ熟達スル者ハ追々等級ヲ進メ一等ニ至ルヲ得ヘシ
但シ格別ノ所能アルハ此例ニ據ラス一時ニ數等ヲ進ムルコアルベシ

第七條

女工ノ内才智アリテ筆算ヲ能シ功勞アルモノハ取締副取締ニ任スルヲ得ヘシ
但シ正副取締ヲ命セラル、モノハ場中ノ公事何事ニ限ラス他言セス且無據事故ノ外濫リニ退職ヲ願ハサル旨未條雛形ノ通誓詞ヲ出スヘシ

第八條

正副取締ハ部中役員ノ差圖ニ從ヒ女工場中ノ取締向ハ勿論平日女工共業前ノ善惡并精勤不精勤等ヲ心付工業ノ上達ヲ獎勵スヘシ

第九條

正副取締ハ門監ヘ立會日々女工共場中ノ出入ヲ改メ不正ノ所業ナキ様心付ヘシ

第十條

女工ノ内工業中不正ノ所業アルヲ正副取締ニテ不心付他人ヨリ顯ハル、コアレハ本人ハ勿論正副取締モ亦相當ノ咎ヲ受クヘシ

第十一條

毎日製造品ノ請納及ヒ日用物品ノ受渡等ハ總テ正副取締ニテ引請取扱フヘシ

第十二條

女工ニ命ゼラル、者ハ奉職中精勤致スハ勿論別シテ行狀ヲ相慎ミ平常取扱フ所ノ秘事ハ終身他言スヘカラズ

第十三條

女工ニ命ゼラル、上ハ故ナクシテ濫リニ退職ヲ願フヘカラス

第十四條

女工ハ正副取締ノ差圖ニ從ヒ諸事正路ニ精勤スヘシ

第十五條

工業ノ時間ハ一日九時間トシ右時間ノ外日ノ長短ニ應シ別ニ食事ノ時間ヲ定ムルヲ左ノ如シ

三月ヨリ九月マデ

一時間

十月ヨリ二月マデ

三十分間

但シ事業ノ都合ニヨリテハ此時間ヲ伸縮更定スルヲアルベシ

第十六條

右通常時間ノ外ニ於テ執業スルモノハ左ノ割合ヲ以テ増給ヲ與フヘシ

一等女工

一時間ニ付

金四錢四厘

二等女工	同	金三錢九厘
三等女工	同	金三錢三厘
四等女工	同	金貳錢八厘
五等女工	同	金貳錢貳厘
六等女工	同	金壹錢八厘
七等女工	同	金壹錢四厘
試驗女工	同	金壹錢壹厘
一級女工	同	金壹錢壹厘
二級女工	同	金八厘

第十七條

毎日定メノ時刻ニ後レ出頭スル者ハ其日ノ入場ヲ許サス

第十八條

入場ノ上ハ退散ノ時刻迄故ナク退散スルヲ許サス

第十九條

入場退場ノ節ハ肌着下帶ノ外着服ヲ嚴禁ス
但シ正副取締ハ役服ニテ入場退場スヘシ

第廿條

毎日場中出入ノ節ハ兼テ渡シ置タル鑑札ヲ以テ通行スベシ
但シ此鑑札ヲ紛失スル者ハ相當ノ咎メアルヘキニ付平
日太切ニ所持スヘシ萬一此鑑札ヲ取落ス等ノコアラハ
早速届出ヘシ

第廿一條

女工中銘々ノ望ニ從ヒ組合ヲ立組合規則ヲ守リ互ニ相戒メ組合中誠實ニ取締方ヲナスヘシ

第廿二條

場中ハ勿論入場退場ノ節タリ共物靜ニ行儀正シク致シ高聲ハ勿論雜談スヘカラス

第廿三條

場中ハ勿論門内通行ノ途中タリ共男子ト猥リニ言語ヲ交ユヘカラス

但場中ニ於テ萬一男子ヘ引合可致無據次第アラハ正副取締ヘ申立取締ノ取次ヲ以テ談判ヲナシ決シテ自身ニ

引合ヲナスヘカラス

第廿四條

總テ製造品ハ勿論日用諸物品等太切ニ取扱フヘシ

第廿五條

銘々受持ノ外猥リニ他ノ場所ニ至ルヘカラス

但シ公務ハ此限ニアラス

第廿六條

工業中不正ノ所業アルハ勿論出入ノ途中ニ於テモ行狀正シカラザルコトアレハ即時ニ放免スヘシ

第廿七條

場中ハ工業入用ノ外決シテ火鉢ヲ用ユヘカラス

第廿八條

場中ハ決シテ煙草ヲ用ユヘカラズ

第廿九條

入場ノ節ハ結ビ髮ヲ定法トスベシ

第三十條

工業中ハ役服ヲ貸渡スベシ

第三十一條

正副取締ノ外三等以上ノ女工病氣等ニテ休業スルヲ三週間ニ及ヘハ鑑札ヲ返納スヘシ四等以下ノモノハ二週間ニテ鑑札ヲ返納スヘシ尤平日精勤ニテ工業ヲ能スル者并婚姻懐胎等無據次第アルモノハ別段ノ詮議ヲ以テ日延休業

ヲ許スヘシ就テハ婚姻又ハ懐胎等事故アル者ハ其旨書面ヲ以テ届出ヘシ

但病氣等ニテ休業スル者正副取締并三等以上ノ女工ハ其時々届出四等以下ノ女工ハ一週日毎ニ届出ヘシ

第三十二條

製造向ノ都合ニヨリ局長ヨリ三日以上ノ休業ヲ命スル時ハ正副取締并三等以上ノ女工ハ休業ノ間日給ノ四分一ヲ與フベシ

但シ四等以下ハ此例ニアラス

第三十三條

非常ノ勉勵アルモノハ臨時相當ノ賞與アルヘシ

第三十四條

住居并ニ身分ニ替ルコトアラハ早速届出ヘシ
右之條々堅ク相守リ可申事

明治十年九月

女工正副取締誓詞案

- 一 自分事此度女工取締副取締被仰付候ニ付テハ御規則ヲ相守リ御役員衆ノ御差圖ニ從ヒ諸事入念取締向行届候様精々心掛ケ相勤可申事
- 一 御用向ハ何事ニ限ラス決シテ他言申間敷事
- 一 無據事故ノ外ハ自分ヨリ退身相願申間敷事

一 勤仕中ハ御部中ニテ取扱候事業ヲ以テ私ノ營業致ス間敷候事

右ノ條々堅ク相守リ決シテ相背キ申間敷候因テ誓詞如件

年月日

何部女工取締副取締何ノ誰印

紙幣局長何某殿

一、
二、
三、
四、
五、
六、
七、
八、
九、
十、
十一、
十二、
十三、
十四、
十五、
十六、
十七、
十八、
十九、
二十、
二十一、
二十二、
二十三、
二十四、
二十五、
二十六、
二十七、
二十八、
二十九、
三十、
三十一、
三十二、
三十三、
三十四、
三十五、
三十六、
三十七、
三十八、
三十九、
四十、
四十一、
四十二、
四十三、
四十四、
四十五、
四十六、
四十七、
四十八、
四十九、
五十、
五十一、
五十二、
五十三、
五十四、
五十五、
五十六、
五十七、
五十八、
五十九、
六十、
六十一、
六十二、
六十三、
六十四、
六十五、
六十六、
六十七、
六十八、
六十九、
七十、
七十一、
七十二、
七十三、
七十四、
七十五、
七十六、
七十七、
七十八、
七十九、
八十、
八十一、
八十二、
八十三、
八十四、
八十五、
八十六、
八十七、
八十八、
八十九、
九十、
九十一、
九十二、
九十三、
九十四、
九十五、
九十六、
九十七、
九十八、
九十九、
一百、



